

平成25年3月新隊員特技課程及び第6期一般陸曹候補生課程 後期「需品」・「衛生」教育入隊式



六 甲

発行所
第3後方支援連隊
第1科広報班
〒664-0014
兵庫県伊丹市広畑1-1
電話 072-781-0021
内線 3403

記事内容

- 一面 新隊員後期「需品」・「衛生」教育入隊式
- 二面 #1連隊集中野営訓練
- 三面 #1師団訓練検閲支援、応急出動準備訓練、方面統合防災訓練(丁XR)等
- 四面 駐屯地納涼行事参加、師団ベスト戦士紹介、成績優秀者紹介等
- 五面 人事往来(定期昇任、定期表彰、転出入)
- 六面 定年退官者紹介、井上和彦氏再来隊、4コマ漫画等

連隊は平成25年7月3日(水)、千僧駐屯地音楽隊講堂において平成25年度3月新隊員特技課程及び第6期一般陸曹候補生課程後期「需品」「衛生」計32名の教育入隊式を挙行了した。



連隊長に申告する新隊員



訓練風景(衛生)



訓練風景(需品)

式には、連隊OB会長をはじめ多数の来賓及び新隊員ご家族の出席を得て、澁刺とした中にも厳かに挙行された。

連隊長は式辞の中で「教育を通じてそれぞれの職種の有技者として、技術的にも人間的にも信頼されるべく、自らに資質を高めるため、常に勉学に励み、体力を鍛え、何事に対しても積極的に澁刺と取り組み、たとえいかなる困難に直面しても『生せばなる』の気概をもって一步一步『前へ』進んでもらいたい。(要旨)一等と要望した。また、連隊OB会会長 川端氏は経験談を交え、「同期の絆を大切に、励ましあつて最後まで全員で教育を終了できるように頑張ってください。(要旨)一等と述べ、新隊員を激励された。

新隊員後期教育入隊式から2ヵ月、元氣いっぱい暑い夏を乗り切り、凛々しさを感ずる新隊員はまもなく修了式を迎える。



「衛生」教育隊



「需品」教育隊

後期入隊式から約2ヵ月が経って 2等陸士 四方田 大輔(衛生教育隊)



早いもので、後期教育も約2ヵ月が過ぎようとしています。着隊当初は、前期教育と異なる点もあり、新しい環境の下でうまくやっていたり、不安もありましたが、同じ志をもつ同期20名と過ごす日々は、毎日が刺激的でとても充実しています。もちろん天天下での訓練、厳しい事や辛い事もありますが、共に歯を食いしばって頑張る同期の姿に何度も励まされていますし、きっと私だけではない皆も同じ気持ちで訓練に励んでいるものと思います。また、担任官の衛生隊長をはじめ助教の方々の熱く厳しい中にも愛のある御指導のおかげで、少しずつではありますが衛生科隊員への階段を一步また一歩と上っていると実感しております。我々衛生教育隊20名は、あと一ヵ月もすれば、それぞれの部隊へ配置となりますが、配置先で衛生科隊員として恥ずかしくないよう、残り少ない教育期間ではありますが、全員で一丸となり互いに知識・体力・団結を高めていきたいと思います。

後期入隊式から約2ヵ月が経って 2等陸士 金子 暁真(需品教育隊)



前期教育修了式の翌日に、約4時間車に揺られ千僧駐屯地に到着しました。道中に考えていたことは、新しい環境にうまく溶け込めるかということでした。着隊当日から基本動作の確認・復習を行い、それから数日して職種に関する新しいことを学びそれを実践していく事から後期教育が始まりました。日々訓練を行い生活していく内に、新隊員それぞれの個性も出てくるようになりました。それぞれの意見の食い違い等や、情報の共有や声かけの不徹底からくる失敗から指導を受けることもあり、情報共有と声のかけあいの重要性を再認識しました。また、これらによって団結が高まったとも思います。さらに後期教育での専門教育を受け、各職種の隊員が自分達の職種の重要性を感じているとも思いました。後期教育も残すところわずかとなりましたが、これまで教育を担当して下さった教官、助教の方々から指導していただいた事は全て芯をとらえており、心・技・体のどれもが伸びたように感じます。この教育期間で学んだ事、感じた事を活かして部隊で即戦力となれるよう努力します。

1 連隊集中野営訓練

青野ヶ原演習場を行進する連隊



待避壕構築



2次掘開後、掩蓋材を乗せる



施設幹部による説明

連隊長は「拠点防衛の研修」、「浄水セットによる水の逆浸透」、「大型トレーラ等の車両偽装」、「搬送患者の受け入れ」等、各部隊が特性を踏まえ計画した訓練を視察するとともに、態勢完了した部隊の巡回指導を実施した。また、各部隊から人員を差し出して、掩蓋材を使用した



掩体に入って現場指導する連隊長

今回の野営は、移動及び展開(偵察先発要領)、警戒自衛戦闘(拠点防衛要領)、築城(掩蔽部)を主要演練項目とし、2夜3日の一連の行動を実施、最後に約19kmの徒歩行進訓練を完了した。各部隊は、2夜3日の中で、展開した各C.P、整備所、救護所等の施設天幕や重レッカ、有蓋車、大型トレーラ、野外手術システム車等の車両及び身体等の偽装を行い、警戒自衛戦闘のための築城等を全隊力をもって行った。

待避壕を構築。作業は施設幹部指導の下進められ、概成後施設幹部の説明による認識の統一を図り、作業に携わった隊員にとって成果のある訓練となった。状況終了後の徒歩行進訓練では、疲労が蓄積する中、行進訓練に参加した全隊員が完歩し、行進距離が伸びる第2次連隊集中野営に向け、一つの自信となり、本野営の任務は達成された。

連隊は、平成25年6月7日(金)から10日(月)の間、青野ヶ原演習場において、第1次連隊集中野営を実施した。



重機関銃対空陣地

第2整備大隊



掩体構築

第1整備大隊



連隊除染所を開設

本部付隊



患者搬送及び受け入れ

衛生隊



車両偽装

輸送隊



浄水セットによる水質検査

補給隊

1 師団訓練検閲支援 (兵站支援隊)



糧食交付



師団整備所開設



受閲部隊を癒す「六甲の湯」



燃料交付



救護所開設

連隊は、平成25年6月21日(金)から29日(土)の間、あいは野演習場及び青野ヶ原演習場で実施された第1次師団訓練検閲において師団兵站支援隊を編成し、同訓練検閲を支援した。

師団兵站支援隊は整備支援班、補給班及び救護班が開設及び同行し、整備支援班は車両4件、通信2件、需品4件の回収、整備等、補給支援班は糧食交付が喫食人員述べ約1,300人、耐久品約1,200トン、携行食約7,300食、増加食約2,300トン、生鮮品約9,200トン、給水支援が約200トン、燃料交付が軽油約25,000リットル、ガソリン約600リットル、灯油約200リットルを交付、入浴支援が状況終了した日に開設し、受閲部隊の478人入浴、救護班は診察、救護、後送等、計67件(内科、外科、皮膚科、その他、後送等)の支援実績をあげ、第1次師団訓練検閲の円滑な実施に寄与した。また、各班計画で練成訓練を実施する等、さらなる部隊の精進強化へと邁進し、成果を収めた。

方面統合防災訓練 (JXR)

連隊は平成25年6月17日(木)から7月5日(金)までの間、平成25年度自衛隊統合防災演習(JXR)に参加した。訓練は、南海トラフ巨大地震発生後4夜5日の連続状況を想定し、当初、事前教育等が実施され、7月1日から千僧駐屯地において連続状況下における指揮所訓練に、連隊長以下23名が、千僧駐屯地等において参加した。7月5日、訓練は所期の成果を収めて異状なく終了した。

連隊は、第1整備大隊が担任して、平成25年7月8日(月)から10日(水)の間、千僧駐屯地において射撃予習等の事前訓練を実施し、同年7月11日(木)から13日(土)までの間、日本原演習場において個人携帯対戦車弾射撃訓練を、第1整備大隊本部付隊長 黒木1尉以下33名で実施し、連隊各部隊における射手を養成するとともに射撃練度の向上を図った。



連隊LAM射撃訓練

応急出動準備訓練

連隊は平成25年7月17日(水)から19日(金)までの間、応急出動準備訓練を実施し、出動にかかると意識改革と即応態勢の強化を図った。

訓練は17日、千僧駐屯地所在部隊を対象に午前9時状況開始、後各部隊はそれぞれ応急出動の各準備(①出動車両への隊荷の積載、②事務室・営内等の保有品の区分・整理、③各施設の遮光処置、④補給品(弾薬)受領、⑤基礎資料の作成・整理、⑥精神教育の実施、⑦個人携行品の準備、⑧遺書の作成、⑨隊容検査等)を計画に基づき整齊と行った。状況開始から24時間後の18日午前9時、連隊は南側グラウンドにおいて出陣式を実施した。



出陣式で勝ち関(どき)をあげる連隊



書庫内の簿冊等は全て搬出



倉庫内の物品も全て搬出



各部隊ごと隊容検査を実施

その後、連隊長による各部隊の準備状況(車両・武器庫・施設等)の点検を行った後、状況を終了し、各部隊はそれぞれ撤収・復旧に取りかかった。訓練は所期の成果を収め、各部隊及び各隊員に数多くの教訓事項を残して異状なく終了した。

千僧駐屯地納涼行事参加

連隊は平成25年8月6日(火)及び7日(水)の2日間、千僧駐屯地において駐屯地納涼行事に参加した。

ご多忙中にもかかわらず、多数の部外協力者及び連隊OB会役員の方々をはじめ、隊員家族等の来隊をいただき現役隊員との懇親を深める事が出来た。また、部隊対抗盆踊りコンクールにおいて、各部隊は趣向を凝らした踊りを披露し、補給隊新隊員教育チームは観客の目を釘付けにした奇抜な衣装と華麗な踊りで見事「伊丹市長賞(優勝)」を勝ち取った。このほか、各部隊は模擬売店を出店し、美味しい食べ物の提供や子供向けの催しにより来隊者を楽しませた。隊員も家族と職場での貴重な時間を過ごし、盛況に終了した。



衛生隊新隊員チーム



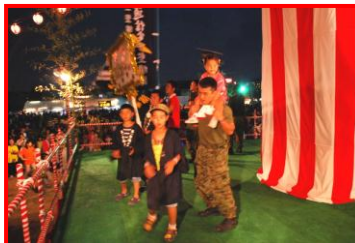
伊丹市長賞を受賞した補給隊新隊員チーム



連隊OB会役員の方々と談笑する現役隊員



来賓の方々も多数参加



隊員家族も参加し、楽しい時間を過ごした。



大盛況の各部隊模擬売店



師団ベスト戦士!

師団ベスト戦士とは、平成24年度に実施された小火器射撃検定・体力検定・TOEICで師団内における成績優秀者をベスト戦士として、師団最上級曹長から表彰されるもので、連隊から「体力検定40歳未満(男性自衛官の部)及び「TOEIC」で2名の隊員がベスト戦士として褒賞及び記念メダルを授与されました。

2整大2普直支
2曹 森田 尚宏
体力検定40歳未満
男性自衛官の部ベスト戦士

2整大2普直支
士長 中田 努
TOEIC(810点)ベスト戦士



成績等優秀者紹介

輸送隊 3尉 奥村 守
装備改善認定
【特大型セミトレーラ車載エアホースの注入口交換による車両整備の容易性】が認められ、陸上幕僚長より認定書授与



衛生隊 士長 大野 孔実
警衛上番中 送迎らっぱ優秀により
師団長よりメダル授与



大野士長

補給隊 3曹 井置 健
一般体育課程「曹体育」において自衛隊体育学校第1教育課長より表彰



木田士長

戦技能力優秀隊員紹介

毎月、月末点検時に実施している各部隊選抜された陸士隊員を対象とした各種項目の優秀者です。

6月 実施項目 個人用対戦車弾の射撃要領
補給隊 菊野士長(記録 46秒)

7月 実施項目 防護マスクの装面
補給隊 川端士長(記録 6秒5)

8月 実施項目 目隠しでの小銃の分解・結合
本部付隊 藤森士長 総合1位
(記録 分解1分13秒 結合1分55秒)

補給隊 森内士長 分解1位(記録 1分12秒)

人事往来等の紹介

定期昇任

(2等陸曹へ)	(1等陸尉へ)	(2等陸尉へ)	(2等陸佐へ)
本部付隊 1 整大本付 1 整大工事 1 整大火車 2 整大2普 衛生隊	本部付隊 1 整大本付 1 整大火車 1 整大工事 2 整大2普 衛生隊	本部付隊 1 整大本付 1 整大工事 2 整大2普 衛生隊	連隊本部 1 整大本付 1 整大工事 2 整大2普 衛生隊
石井 詠子 由井 秀弥 安藤 啓	大野 剛 井上 盟子 村上 光陽 山本 将生 東條 伸一 谷山 浩二 植田 哲也 山崎 幸世	出口 貴人 寶徳 淳 八田 秋彦 大西 一男 河津 士郎 笹田 康生	植松 佳郎 福徳 敬 生田 雄也 梶 貴博

定期表彰

師団長表彰	連隊長表彰	第3級賞詞(職務遂行)	第4級賞詞(職務遂行)	第5級賞詞(職務遂行)	第4級賞詞(業務改善)	第4級賞詞(車両無事故)	第4級賞詞(縁故募集)	第5級賞詞(業務改善)	第5級賞詞(業務改善)
本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊
曹長 安達 正博	曹長 安達 正博	曹長 井上 直樹	曹長 山下 晃太郎	曹長 堀本 潤也	曹長 堀本 潤也	曹長 堀本 潤也	曹長 堀本 潤也	曹長 堀本 潤也	曹長 堀本 潤也

離着任部隊長等紹介



渡邊 1尉
第1整備大隊から
(部内異動)

第2整備大隊
特科直接支援隊長

着任



折原 1尉
第1整備大隊へ
(部内異動)

第2整備大隊
特科直接支援隊長

離任

※所属は受賞当時の部隊

連隊長表彰	第5級賞詞(職務遂行)	第4級賞詞(業務改善)	第4級賞詞(車両無事故)	第4級賞詞(縁故募集)	第5級賞詞(業務改善)	第5級賞詞(業務改善)
本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊	本部付隊
炭谷 充明	堀本 潤也	堀本 潤也	堀本 潤也	堀本 潤也	堀本 潤也	堀本 潤也



連隊長統率方針 連隊長要望事項
命と炎 生せばなる 前へ

定期異動

8月転入者	7月転出者
本部付隊 准尉 田中 清己 曹長 有田 豊徳 兵庫地本 中方付 (伊丹)	第1整備大隊 3尉 池原 麻雄 3尉 財賀 雄介 兵庫地本 関西処桂 (桂)
衛生隊 奥村 朋佳 2尉 伊丹駐業(伊丹) 36普連(伊丹)	第2整備大隊 1曹 梅田 浩司 1曹 波多野 律子 8後支連(北熊本)
補給隊 吉村 明彦 1曹 真原 令子 3師司付(千僧)	補給隊 谷口 未央 2尉 南本 政史 109阪神病院(川西) 109阪神病院(大津)

定年退官者

連隊付
2等陸佐 宮武 慎
(第10代副連隊長)



7月5日付

衛生隊
陸曹長 谷口 誠一



8月7日付

永年の勤務 お疲れ様でした

軍事ジャーナリスト 井上和彦氏再来隊

平成25年5月14日(火)、連隊に軍事ジャーナリストの井上和彦氏が2度目の来隊をされ、同伴で日本文化チャンネル桜二千人委員会練馬支部長の鈴木正人氏が来隊された。

今回で2度目となる井上氏に対し、連隊は歓迎の意を込めて、らっぱ吹奏展示(吹奏:補給隊 廣瀬士長)を実施した。

また、1整大整備実習場3階訓練準備室において、同氏のご厚意で記念講話を実施して頂き、短時間ではあったが、非常に心に残る思い出深い1日となった。



井上氏と鈴木氏を囲んで記念撮影



井上氏の講話に隊員も興味津々でした

「中身は・・・！」 作: 衛生隊 中川士長

4コマ漫画



※伊丹市のマスコット「たみまる」(左)と兵庫県のマスコット「はばたん」(右)

連隊OB会入会案内

転出、任期満了退職及び定年退官される皆様へのご案内です。連隊OB会では、第三後方支援連隊OB会会員相互の親睦及び連携を深めるとともに、第三後方支援連隊の活動及び行事等を後援して、その発展に寄与することを目的として活動する会です。

OB会発展のため、入会をお願いします。入会される方は、各部隊人事担当者まで。

連隊ホームページのご案内

連隊は、ホームページを開設しています。携帯電話、スマートフォン、ご自宅のパソコン等から第三後方支援連隊のホームページにアクセスし、ご覧になれます。アクセス方法…「第三後方支援連隊」を検索↓「第三後方支援連隊HOME PAGE」↓をクリック!

アドレス

www.mod.go.jp/gsdf/mae/3d/3log/index.html



編集部から

読者の皆さん、「六甲」を愛読下さいまして誠にありがとうございます。夏も終わりを迎えようとし、朝晩がだいぶ涼しくなってきましたね。

今回の第51号から「六甲」の編集部を立ち上げ、新たなメンバーで制作・編集しました。

連隊は、2四半期から3四半期にかけて訓練、支援、各種記録会等、最盛期を迎えますが、日本一の連隊を目指し、前へと進みまので、ご協力お願いします。

広報幹部 田中准尉 編集長(広報陸曹) 久松2曹
広報幹部 坂口3尉



編集部委員

第二整備大隊 松永曹長

編集部委員

補給隊 小田3曹

編集部委員

衛生隊 中川士長

